

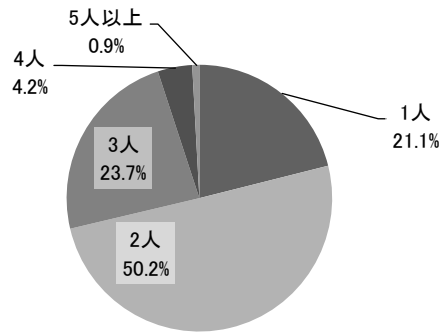
子育て支援WGにおける協議内容

基本方針	課題	「子育て支援アンケート」結果	施策の方向性	これまでの議論を踏まえた支援施策の例
子育ての孤立化の防止	医療と児童福祉の連携 課題を抱える家庭の早期対応	[妊娠・出産時に負担、不安に思うこと] ・出産に係る精神的負担:24.0%	○全ての市町村で高い水準の母子保健サービスを提供	○ 母子保健体制の充実 ・不安を抱える家庭の早期把握・支援のための体制整備 ・妊娠・出産や病気に関する相談支援の充実
	産後ケアが不足	[妊娠・出産時に負担、不安に思うこと] ・出産に係る精神的負担:24.0%	○全ての妊婦に相談担当者(保健師等)を付けるなど、 妊娠・出産・育児まで切れ目ない支援の実施	○ 産後ケアの充実 NPO等による母子ケアの取組を支援
子育てに伴う経済的負担の軽減	保育料等にかかる負担感	[今後充実を希望される支援サービス] ・保育料の軽減:64.3%〈最多〉 (理想の子どもの数が多いほど、回答割合が高い)	○多子世帯における、子育てに要する経費の負担軽減	○ 保育料に係る負担の軽減 第3子以降に対する保育料の軽減
	医療費にかかる負担感	[今後充実を希望される支援サービス] ・医療費の軽減:55.7%〈2位〉 (理想の子どもの数が多いほど、回答割合が高い)		○ 福祉医療費給付事業 医療費に係る負担の軽減
子育てと仕事の両立	保育ニーズの多様化への対応	[仕事と子育ての両立で行政に期待すること] ・急に子どもを預けられる先の確保:47.3%〈2位〉 [満足している子育てサービス] ・学童保育・放課後児童クラブ:29.2%〈2位〉 (今いる子ども数が多いほど、回答割合が高い)	○病児・病後児保育やファミリー・サポート・センター事業 等、各市町村において住民が必要とする時に必要な保育 サービスが提供される体制の整備	○ 保育のサービス提供体制の整備 病児・病後児、休日夜間、放課後児童クラブ など多様なニーズに対応した受入体制の整備
	保育士の確保	[仕事と子育ての両立で行政に期待すること] ・保育サービス(全般)の充実:56.5%〈最多〉 [今後充実を希望される支援サービス] ・保育サービス(全般)の充実:45.8%〈4位〉	○年度当初・中途を問わず、保育所入所希望に合わせ て、いつでも容易に保育士が確保できる制度確立	○ 子育て支援に関わる人材・サービス事業者 の確保・育成 ・保育人材の広域での確保 ・地域の住民が子育て支援に係る関わる体制 の整備
	地域における子育て支援体制整備	[仕事と子育ての両立で行政に期待すること] ・急に子どもを預けられる先の確保:47.3%〈2位〉	○高齢者や主婦等が、地域住民が子育て支援に積極的 に関われる体制整備	
	多様な働き方が選べる	[将来、持つ予定の子どもの数が理想的な子どもの数 より少ない理由] ・働きながら子育てができる環境がない:35.7%〈2位〉	○企業による、仕事と生活の調和がとれた職場環境整備 に向けた取組の拡大	○ 働きやすい環境整備 ・企業に対する多様な働き方の普及
多様な子どもや家庭への支援	子ども支援のための相談・救済	[子育てをされていて辛かったこと](ひとり親) ・一人で子育てをしている:35.7%〈3位〉	○子どもの育ちを支える保護者等の負担を軽減するた めの支援体制の整備	○ 様々な困難を抱える子どもや家庭への支援 ・子どもに関する総合的な相談窓口設置 ・子どもの世代への貧困の連鎖を断ち切る 仕組みの確立
	子どもの世代への貧困の連鎖	[子育てに関する経済的な負担の要因] ・学校外教育費(塾・習い事など):39.7%〈第4位〉	○世代を超えた貧困連鎖の解消に向けた子どもの貧困 対策の総合的推進	
情報発信	必要な情報が不足	[利用したサービス] 対象とした11サービスで、平均25%が未記入 →制度が知られていない?	○希望者が、必要な時に必要な情報を入手できる、一元 的な情報発信	○ 子育て支援策の情報発信 子育て支援施策に関する一元的な情報発信
	県外に長野県の優位性を発信して いない	[長野県の子育て環境で良いところ] ・自然環境に恵まれている:87.5%〈最多〉	○県外の子育て世帯に向けた、情報発信	

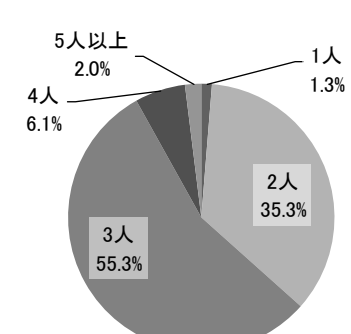
子育て支援意向アンケート 《結果概要》

- (1) 調査対象
現在、子育て中である世帯。
- (2) 調査方法
ワーキンググループ構成市町村の保育園において、保育世帯に配布。
- (3) 調査期間
調査期間 平成26年8月
- (4) 調査数
配布数：2,980 回収数：2,213 回収率：74.3%

1 回答世帯の子どもの数

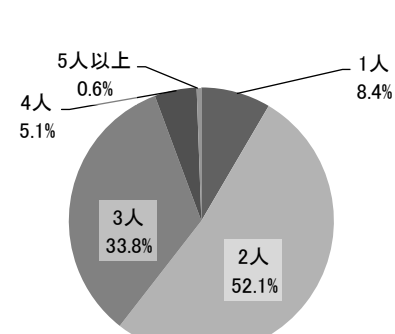


2 理想的な子どもの数

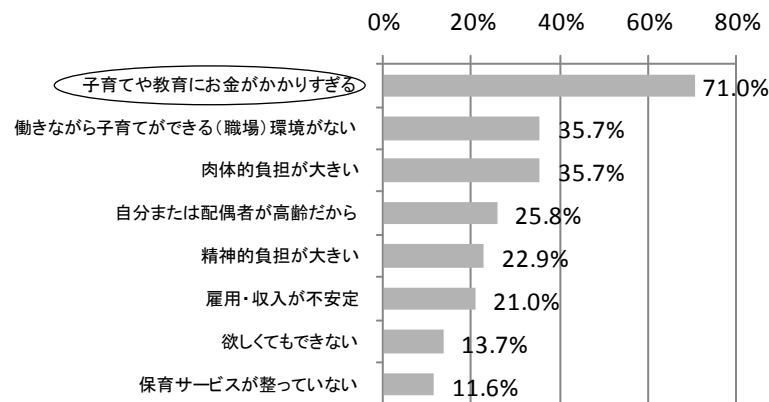


理想的な子どもの数は3人が最も多いが、実際に持つ予定の子どもの数は2人、に止まる。

3 持つ予定の子どもの数

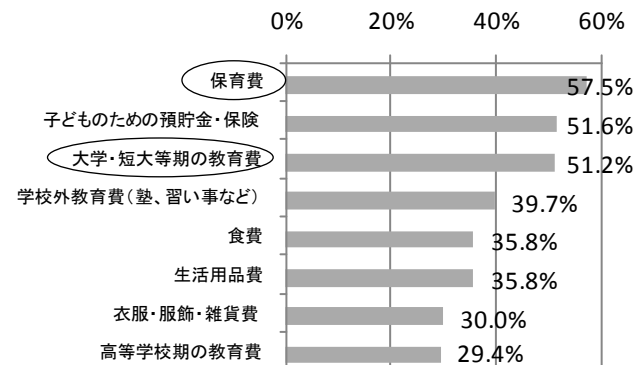


4 「持つ予定の子どもの数」が、「理想的な子どもの数」より少ない理由



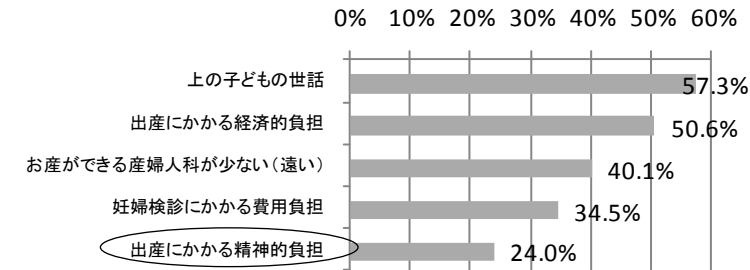
理想的な子どもの数が実現できない要因は、経済的な負担が最も大きい。

5 経済的な負担の要因



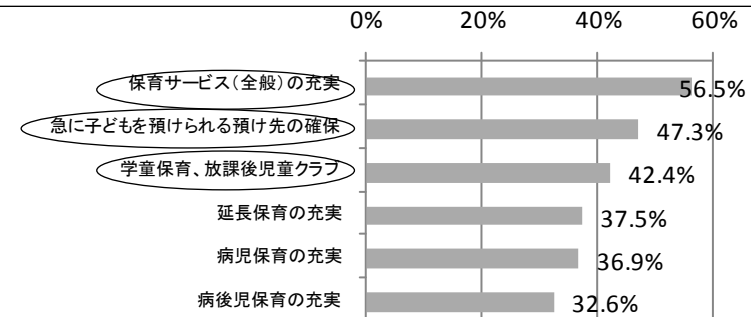
経済的な負担の要因では、保育費、大学等の教育費、が大きい。

6 妊娠・出産時に負担、不安に思うこと



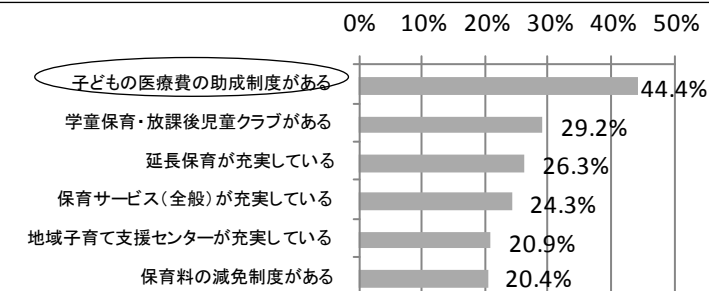
出産時における精神的な負担感、を感じる方も多い。

7 仕事と子育ての両立について行政に期待すること



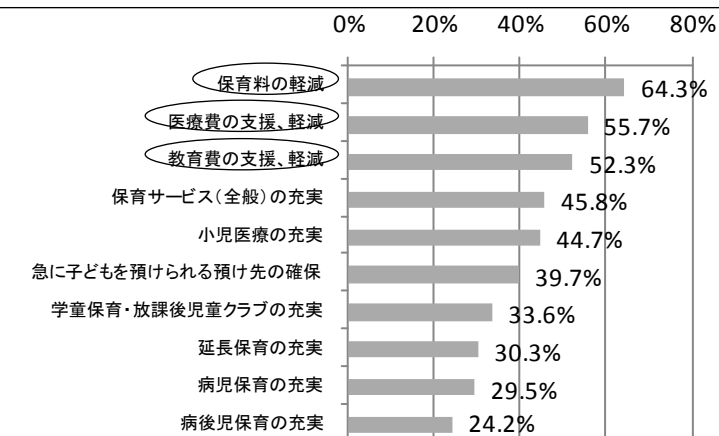
仕事と子育ての両立のため、保育サービス充実、多様なサービスの確保が期待されている。

8 満足している行政の子育て支援サービスについて



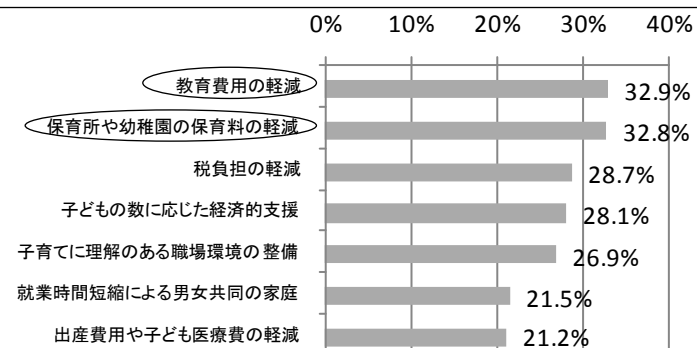
医療費助成に対する満足感が高い。

9 今後充実を期待される子育て支援サービス



今後の支援サービスでは、経済的な支援に対する期待が高い。

10 最も重要だとお考えの支援サービス [3つ選択]



重要だと考える支援サービスでは、教育費用、保育料の軽減が大きい。

ワーキンググループ検討状況(概要)

共通目標

理想の子どもの数を持てる社会の実現

めざす姿

- 1 妊娠・出産から育児まで、切れ目ない支援の充実
- 2 安心して子育てができる、経済的負担の軽減
- 3 子育てと仕事が両立できる、地域や職場の環境整備

子育ての孤立化の防止

具体的な支援策の例

母子保健サービスの充実

- ・不安を抱える家庭の早期把握・支援に向けた体制整備
- ・妊娠・出産や病気に関する相談支援の充実

産後ケアの充実

NPO等との協働により、産後ケアを多くの方が受けられるよう充実

子育てに伴う経済的負担の軽減

保育料に係る負担の軽減

第3子以降に対する保育料の軽減

医療費に係る負担の軽減

福祉医療費の助成

子育てと仕事の両立

保育のサービス提供体制の整備

病児・病後児、休日夜間、放課後児童クラブなど多様なニーズに対応した受入体制の整備

子育て支援に関わる人材・サービス事業者の確保・育成

- ・保育人材の広域での確保
- ・地域の住民が子育て支援に関わる体制の整備

働きやすい環境整備

- ・企業に対する多様な働き方の普及

多様な子どもや家庭への支援

様々な困難を抱える子どもや家庭への支援

- ・子どもに関する総合的な相談窓口設置
- ・子どもの世代への貧困の連鎖を断ち切る仕組みの確立

情報発信

子育て支援施策の情報提供

子育て支援施策に関する一元的な情報発信

県と市町村による子育て支援の強化